

# 紙芝居の作り方

監修／絵本作家・紙芝居作家 長野ヒデ子

紙芝居は大勢の観客を前に演じるものです。絵本のようにひざにのせて読むものではありません。そこで、紙芝居を作るときは、紙芝居ならではの特性を生かすことが大切です。

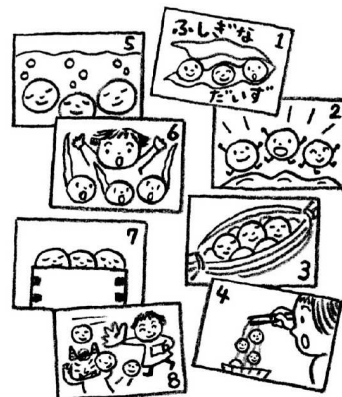
## ① 脚本

まずは、テーマを決めます。「演じる」ということをしっかりと頭に入れて、登場するキャラクターの会話を中心に、ストーリーを考えてみましょう。声に出して演じながら考えると、より効果的です。

★ 脚本は、全体のバランスも考えて、あまり長くなり過ぎないように注意しましょう。

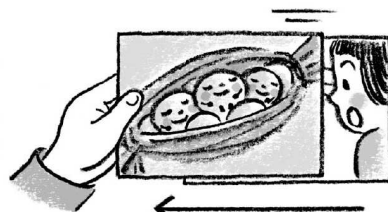
## ② 箱がき

紙芝居の展開を吟味するために、場面ごとの下絵を描いてみます。これを「箱がき」といいます。下絵を見ながら、流れをよく検討しましょう。良い紙芝居は、テーマがしぼられていて一目で場面の状況が伝わり、リズムがあります。



## ③ ひな型

「箱がき」をもとに、はがきサイズの紙芝居（ひな型）を作ってみましょう。紙芝居は右から左に抜いていきます。「画面の`抜き、の効果（次の場面に登場する人物は画面の右に書く等）」や全体のバランスを考えましょう。



絵は右から左に抜きます

## ④ 試演

「ひな型」の紙芝居を演じてみます。必ずだれかに見てもらい、感想を聞いてみましょう。試演することで絵や脚本を深め、作品の完成度を上げましょう。

## ⑤ 本書き

本書きをします。上手に描くことをあまり意識しすぎず、遠くからでも絵がよく見えることに重点をおき、のびのびと描きましょう。

★ 紙芝居は、舞台に入れて演じるものです。画面の端は、1.2～1.5cm くらい舞台の枠にかくれてしまいますので注意しましょう。

★ 画材や描き方を工夫し、遠くからでもよく見える絵に仕上げましょう。離れたところからでもよく見えるようでない、作品の良さが十分に伝わりません。クレヨンやパステル等を使う場合は、色うつりしないように色止めスプレーを使うことをおすすめします。



画面の端は1.2～1.5cmくらい舞台の枠にかくれます

## 参考

### 絵と脚本の書き方

紙芝居では、1枚目の絵の裏に2枚目の脚本、2枚目の絵の裏に3枚目の脚本……、というように書いていきます。従って、1枚目の絵の脚本は最後の絵の裏に書くこととなります。また、画面を「抜く」ことを考えて、脚本は縦書きにします。